

情報の共有

情報の伝達

- ・情報は出ている
- ・情報が遅い
- ・広報配布が遅い
(広報など町内の問題?)
- ・その他の広報誌が多い?
- ・広報誌配布が遅い
- ・広報誌の配布方法はないだろうか?
(町内会以外の方法で)

知りたい情報

- ・教育情報(学校の特徴)
- ・学校の情報(成績、運動レベル)
- ・サークル活動や市民活動の情報

その他

- ・市職員が市議と対等にわたいあって欲しい
- ・市民の意識改革
- ・自分の出来ることはやる
- ・行政サービスも税金という意識

解決策

- ・国、道、市全てが行政情報であると言う姿勢が必要だ
- ・情報量・質共に必要だ
- ・市民全体を市で把握して欲しい
- ・電子ネットワークの構築
- ・ホームページの活用
- ・町内会任せの広報誌配布は限界がある為システムの必要性がある
- ・町づくり委員会などでワークショップを定期的に開催することも良いのでは?
- ・身近な情報を集約することが必要
- ・市内マスコミの情報発信における質の向上

Bグループ

- ★行政から情報がうまく伝達されていない
- ★行政から知りたい情報、市民から伝えたい
- ★知りたい情報、伝えたい情報

情報の共有を目指して

解決策

- ・欲しい情報とどこでそれが得られるかが結びつかない
- ・市議会だよりの内容がタイムリーではないものがある
- ・広報・HPの内容は充実して来ている

不安

- ・広報について配布されているが、読まれているのだろうか
- ・市民のニーズにあった情報伝達が出来ているかどうか？（不安・・・）
- ・市が伝えたい情報と伝えている情報が、市民の知りたい情報とイコールか？

- ・広報誌の「テーマ」についての掘下げ方が浅く感じられる
- ・シリーズでとらえるなどの工夫が必要（例：環境保全と省エネ・省資源）
- ・新聞の「事後報告」が大
- ・広報：月1
- ・素早く伝える媒体→HPの細かな更新
- ・事前にお知らせしたいことが伝えきれない
- ・市民の関心のあるページを多くする（各町内会のアピール等を載せたりする）（赤ちゃん等）
- ・情報を世代別に整理（年代別によって得たい情報が違う）
- ・共通項はまとめて
- ・縦割りでは充実しているが、対象目的別には整理されない
- ・受け手の情報収集が困難
- ・児童・生徒を対象とするものはダイレクトに学校へ（情報は伝えられている）

続き

- ・平易な言葉を心がける
 - ・ワークショップってなんだ？
 - ・広報誌の掲載内容を審査する市民組織が必要（要望）
 - ・市民のアンテナを高くする啓もうと情報インフラが必要
 - ・市民の方々への要求（リクエスト）を施策的な観点からつたえる工夫が足りない（現状を明確に伝える努力）
- ### 共有
- ・このまま行くとこうなると言うデータをぎいぎいにならないと出さない（オフラートに含む）
 - ・反発を恐れず、情報発信を（協力が得られる可能性）

・観光については大事にしていかなければならない。お客さんとして（市民と気軽に活かせるまちに、観光ボランティアも含めて）勝手に見ていって下さいではなく、それを次のお客さんを呼ぶことにつながる

・観光としての視点からHPを活用した情報発信と市民ボランティアを積極的に活用する

Cグループ

行政から情報がうまく伝達されているか？

- ・広報によってうまく伝わっていると思う
- ・行政は情報を充分発信していると考えている
- ・行政から発信はたくさんしているようだが、うまく伝達されていないようだ
- ・伝達方法に良い方法があるのか？
- ・もう少し回数(TV)を増やすなどした方がいい
- ・もっと興味の持てる方法は考えられないのか？
- ・情報発信の主な手段は「広報誌」
- ・わっぴーは勤務時間内の関係で聞けないことが多い
- ・色々な媒体を介して情報が発信されてるが、受け手により伝達状況が変わると思う(検証が必要か？)
- ・情報発信は行われているが、確実に伝わっているのかどうかかわからないので検証が必要
- ・広報誌の充実
- ・うまく伝わっていない

行政から知りたい情報、伝えたい情報

- ・市民の様々なニーズに行政は対応出来るのであるから、質問をする部署を明示する方法を検討する
- ・市民からの情報を伝える窓口が良くわからない(どこに言えばいいの)
- ・「知りたい情報」→何をどこに聞けばなるべく一回でわかるようにしてほしい
- ・市民から伝えたい情報の受け皿をはっきりして欲しい
- ・必要な情報が必要な時に手に入らない
- ・予算情報は出ているが、経費科目が判らない(わかりやすく)

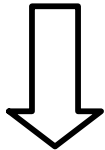
共有するために何が必要なのか

- ・知りたい情報はわかりやすく発信し、受け手は市政に興味を持たなければ成立しない。(互いの意識を改革する必要あり)
- ・わかりやすい情報発信
- ・情報を正確に理解する

Dグループ

行政からの情報は？

- ・情報の発信としては充分ある
- ・広報誌が遅い
(情報が遅い、地区による)
- ・ホームページが詳しい内容になっていない
もっと知りたい！！
(イベント等)
- ・「議会だより」はもっと見やすく目につくように
- ・年代別に興味のある情報別に広報の改善



行政が市民の求めている情報について
研究が必要である

行政から知りたい情報

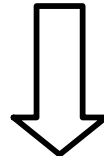


- ・広報は年代によって知りたい情報は違う
- ・年代ごとに欲しい情報があると良い
(助成制度など)
- ・イベント情報だけでなく、子育て助成などをもっと発信
- ・市の財政についてもっとくわしく知りたい
- ・福祉情報をもっと知りたい
- ・医療、福祉、教育等の体制強化と充実のための共有できる情報発信
(市民生活に直接的に)

市民から伝えたい情報



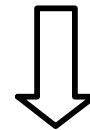
- ・市のホームページに掲示板(分類)を使って
- ・店先情報(店前道路)
- ・バーゲン情報
- ・泊・宿情報
- ・市民のイベント情報のお知らせ等
- ・地域産業の実情の情報発信
(主なもの:水産業を中心にしたもの)



行政職員も一市民としての地域の中で共働活動で市民、地域が何を求めているかを知る必要もある

「知りたい情報」「伝えたい情報」を共有するためには？

- ・市民参加のまちづくり活動を通じて、相互の共有される方向にすべき
- ・地域(町内会の活動状況や総会日時等)の情報提出
- ・行政が企業の会議等に参加し、意見交換の時間をもらう
- ・ワークショップの活用
- ・市の基本計画等策定段階から市民と意見交換
- ・出前講座の活用
(特に行政施策に関わる事業)



広報活用

市民も行政も含めた地域住民活動を通じて、市民と行政の情報共有されるものであり、稚内市の自治基本条例の方向性にすべき

Eグループ

何が必要か？

- ・市民が読みやすい内容にする
- ・情報 → 性格 → スピーチー
- ・職員は日常的に広報マンに徹して欲しい
- ・トータルアドバイザーの創設
(たらい回し防止)
- ・市民が気軽に相談出来る関係作り
- ・総合窓口の創設
- ・広報に載せる情報の選択の仕方を工夫
(市民のニーズに応じて)
- ・興味が生まれた時にスピーチーに情報が取れるか
- ・市民の関心を引きつけられるような見出しのつけ方
- ・市民が市民に伝えたい情報を行政が間に入って伝達するシステム
- ・回答する側の市民感覚が必要
- ・目線を同じくする
- ・タイムリーな情報発信
- ・広報配布の時期を出来るだけ早期に
- ・議会だよりをもっと早く出すべき
- ・市民の要望がスムーズに行政に伝わるシステム作り
- ・行政間の情報メニューを公開する

行政 → 市民

- ・生活に密着した情報
- ・新鮮な情報

市民 → 行政

要望

- ・市政に感心を持つことによって情報の伝達が深まる
- ・情報伝達がうまくいかないのは、無関心市民の拡大となる
- ・市民が誰に聞くかがわからない
- ・無関心市民を作らない

情報の伝達度

- ・情報の報告が多く、先行した情報が少ない
- ・情報のキャッチボールが上手に出来ていないのではないか？
(欲しい物、持っている物)
- ・市民のニーズに応える情報選択がなされていない
- ・広報配布の時期が町内会、班、区によってまちまち
- ・市民からの情報を伝える窓口(市民生活課)が知られていない
- ・範囲が狭い
- ・情報の量が問題
- ・タイムリー性に欠けている
- ・最新の情報をすばやく発信していないのではないか？